

報告症例（音声言語）記録用紙：記入例

症例 1 区分番号（ 1 ）

年齢 6 歳

診断名 片側性唇顎口蓋裂（左）

言語障害名 構音障害

手術歴

A 病院形成外科にて 1 歳 3 か月時に口蓋形成術を施行され、その後 6 か月に 1 度、A 病院の言語聴覚士による言語管理を受けた。

合併症

滲出性中耳炎の罹患歴あり。近医耳鼻咽喉科にて投薬による治療を受けたが、聴力低下はなかった。

【言語評価】

5 歳時の言語評価は以下の通りである。

- 1) 鼻咽腔閉鎖機能：〇〇検査にて、開鼻声（-）、呼気鼻漏出による子音の歪み（-）、ソフトブローイング時の呼気鼻漏出（-）で、鼻咽腔閉鎖機能は良好と判定された。
- 2) 構音：〇〇検査を実施したところ、[t, d (-a, o)] は単音節から一貫して口蓋化構音を認めた。[te]は単音節と単語で適正音が可能であったが、文章と会話では口蓋化構音を認めた。また、[s, ts, dz] は 全ての後続母音において、単音節から一貫して口蓋化構音を認めた。
- 3) 知的発達および言語発達：PVT-R 絵画語い発達検査にて、語い年齢 4 歳 8 ヶ月（評価点 SS9）であり、保護者への聞き取りを総合し、大きな問題はないと判断した。

【まとめ】

鼻咽腔閉鎖機能は良好だが、構音は口蓋化構音を認めた。精神発達及び言語発達に関しては、大きな問題がないと考えられた。

【方針】系統的な構音訓練を行うことのできる発達段階に達し、課題態勢も整っているため、構音訓練を開始する。

【言語治療】

構音訓練については、当院への頻回な通院が困難なため、症例の地元にある B センターの言語聴覚士に依頼した。当院言語治療室でも 6 か月に 1 度の定期検診を継続している。

* 資料がある場合は添付：構音評価の場合は構音検査（単語、音節）のシート構音検査シート添付